

権利擁護／虐待防止

事例検討編②

④虐待している職員への指導

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、今までの研修の総まとめとして、虐待している職員の指導を考えていく。

研修の進め方①

まずは、次の事例を読み上げます。

事例(ある職員Aさんが受けた説明)

Aさんはパートとして週に4日特別養護老人ホームで働くことになりました。主に認知症の人が入居しているフロアで、入浴介助と昼食の食事介助が主な業務です。このフロアでは、新卒の若いスタッフと年配のベテランのスタッフが半々くらいの割合で働いています。

食堂で利用者の食事介助をしました。その時にこちらを向いて食事をしている車イスのBさんがいました。Bさんの斜め前にはベテランスタッフのCさんがBさんの様子も見ながら、他の利用者の食事介護をしています。Bさんは自力摂取で食事をしていました。Bさんは食堂の壁を背にして座っています。よく見てみると、Bさんのすぐ後ろに壁があるように感じました。

近くの新人スタッフのDさんに尋ねると、「Bさんはすぐに車イスから立ち上がろうとするので、テーブルで立ち上がれないように押さえているんです。前に車イスから立ち上がろうとして転倒したことがあって、家族からは立ち上がれないようにしてくださいと頼まれています」ということでした。それで、車イスで後ろに下がろうとしてもすぐに壁にぶつかって動けないようにしてあるんだと理解できました。

事例(続き)

居室ではどうしているのかDさんに尋ねると、「うん、Bさんの部屋はナースセンターの真向かいの部屋なんですけど、すぐに動いたかどうかがわかるように掛け布団の足元やくつに鈴を付けているんです。鈴の音が聞こえたら、大急ぎでBさんの部屋に向かいます。本当はセンサーマットか何かがあればいいんだけど、今は他の人に使われちゃっているので、鈴で対応しています。

Bさんが動こうとしたようです。ベテランスタッフのCさんの「ちょっと待ってて、まだこっちのご飯が終わってないから。もうちょっとで終わるから、それまで待ってて。終わったら、テーブルをどかしてあげるから。待っててって。だから、終わったらどかしてあげるからって言うてるでしょ！」という大きな声が聞こえてきました。

研修の進め方②

次の質問を参加者に投げかけます。参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

なぜベテランスタッフのCさんは、テーブルで押さえつけたり、どかさなかったのでしょうか？ また、鈴を付けることについてCさんはどう考えたのでしょうか？ Cさんの考えについて考えてみましょう。

うまく答えが出てこない場合は「想像力を働かせて考えてみましょう」と投げかけます。

1)なぜベテランスタッフのCさんは、テーブルで押さえつけたり、どかさなかったのでしょうか？

また、鈴を付けることについてCさんはどう考えたのでしょうか？

Cさんの考えについて考えてみましょう。

研修の進め方②

全員に答えてもらったら、グループワークに入ります。

グループワークのテーマ

この事例から、今後新人職員Dさんにどのような指導をすると良いのか、自分がリーダーになったつもりで考えてみましょう。

☆Dさんへの指導というスタイルを取っていますが、ねらいはそこから自分を律する態度を身につけることです。そのため、「正解は〇〇だ」というものはありません。

* 話しが全然違うところに飛ばなければ、話し合いの内容を修正する必要はありません。

グループワーク(10分)

2)この事例から、今後新人職員Dさんにどのような指導をすると良いのか、自分がリーダーになったつもりで考えてみましょう。

研修の進め方④

- ①話し合いが終わったら、各自でワークシートに記入してもらいます。
- ②記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。
- ③ワークシートを回収して、全員の考え方を整理して、フィードバックして、研修は終了です。

個人ワーク(10分)

3)この職員にはどういう指導が適切だと思えますか？

あなたならどういう指導をしますか？

ワークシートにまとめてみましょう。

この教材を終えるにあたって

今回の研修は、新人職員Dさんへの指導というスタイルを取りました。

話し合ったことは他人ごとだと思わずに、常に自分の心に留めて、時々自分の言動について振り返ってみることが大切です。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行